

人々のつながりを安全と安心につなげる

- 南芦屋浜地区の高潮浸水被害対策として、マンホールからの溢水対策を目的としたフラップゲート等の設置(8,000万円)
- 南海トラフ巨大地震等に備えるための芦屋下水処理場および低区配水池の耐震化の取り組み(3億3,466万円)
- 高齢者の健康状態を総合的に把握するための「後期高齢者の質問票」を後期高齢者医療健康診査等に導入
- 24時間365日稼働の電話相談(救急安心)センター#7119の継続
- 介護人材養成研修の受講費用助成の継続
- 地区防災計画の策定を支援するための、会議の運営・ワークショップ・計画書の作成等をサポート
- 県の洪水ハザードマップの見直しを受けた芦屋市版の洪水ハザードマップを作成および従来の防災情報マップのレイアウト等の変更

人々のまちを大切に作る心や暮らし方をまちなみにつなげる

- 芦屋川沿道の無電柱化工事の着手(1億2,675万円)
- 南芦屋浜下水処理場の監視制御装置の更新(7,200万円)
- 霊園において、合葬式墓地・管理棟の建設(令和3年度開設予定)および霊園内の道路の舗装や側溝の新設・改修工事の実施(4億6,082万円)
- J R 芦屋駅南地区の市街地再開発事業の推進(30億9,404万円)
- 街路樹の維持管理費などの課題解消に向けた街路樹更新計画の策定
- ごみの減量のための取り組みとして芦屋市指定ごみ袋の導入の検討
- ラポルテホールの音響設備の改修
- 最新の調査結果に基づく公園施設の長寿命化計画の策定
- 令和3年度からの環境処理センター長期包括的運営業務委託の開始に向けた準備

人々と行政のつながりをまちづくりにつなげる

- 第4次総合計画の取組成果と課題を踏まえた第5次総合計画(令和3年度～令和12年度)および創生総合戦略(令和3年度～令和7年度)の策定
- 業務の効率化を目的としたRPA(ソフトウェアを用いた業務の自動化)の導入

芦屋の未来を創る 予算編成

財政課 ☎38-2011



一般会計は、469億1,000万円増5.4%

歳出の主な増加理由

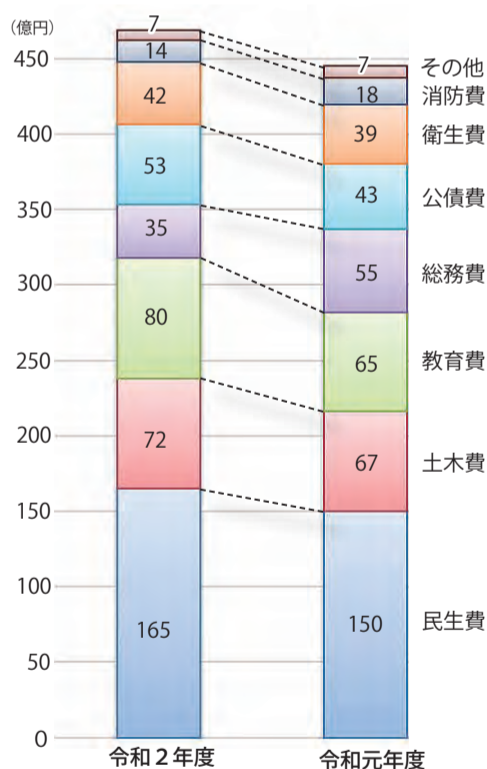
阪神・淡路大震災以降、長年据え置いていた学校などの公共施設の更新事業を進めるために教育費、土木費が増加しています。幼児教育・保育の無償化の影響や待機児童解消策のために民生費が増加しています。

- 民生費：幼児教育・保育の無償化に伴う私立保育所等への助成費の増加や令和3年4月開園予定の市立認定こども園の整備(精道・西蔵)(事業費：14億1,500万円)等により増加
- 土木費：JR芦屋駅南地区再開発事業の推進(事業費：30億9,404万円)等により増加
- 教育費：精道中学校建替工事(令和4年度完了予定)および令和3年1月からの給食開始(事業費：31億8,342万円)等により増加

歳入の主な増加理由

市税が約5億円増加するほか、JR芦屋駅南地区再開発事業や中学校の建替え、認定こども園の建設事業が本格化するため、市債の借入れが増加しています。

一般会計歳出



令和2年度予算(案)

区分	予算額	増減率(%)
一般会計	469億1,000万円	5.4
特別会計	247億7,250万円	0.2
国民健康保険事業	106億200万円	7.0
公共用地取得費	1億7,300万円	△92.2
都市再開発事業	12億9,200万円	146.1
駐車場事業	4,950万円	0.6
介護保険事業	102億5,500万円	5.4
後期高齢者医療事業	24億100万円	4.8
企業会計	141億9,128万円	△1.2
病院事業	67億6,178万円	0.1
上水道事業	31億9,613万円	△3.1
下水道事業	42億3,337万円	△1.6
財産区会計	1,150万円	△63.5
合計	858億8,528万円	2.7

令和11年度までの財政収支見込み

収支の状況

以下の表は、令和3年度から令和11年度までの、市税などの一般財源額(歳入)と、その一般財源でまかなうべき経費(歳出)、歳入歳出差引額(△は収支不足額)と基金残高の見込みを示したものです。

社会保障関係経費の増加に加え、阪神・淡路大震災により据え置いてきた公共施設の老朽化対策が今後も必要となることから、令和11年度までの収支不足額の合計は104億円となる見込みです。この不足額は基金で補てんすることになります。

【収支の見込み(一般財源ベース)】

年度	3	4	5	6	7	8	9	10	11	合計
歳入	270	270	266	283	263	263	259	259	258	-
歳出	283	289	287	298	273	272	267	260	266	-
歳入歳出差引	△13	△18	△21	△15	△11	△10	△8	△1	△7	△104
基金残高	82	64	43	28	18	8	0	△2	△9	-

※決算時に生じる歳出の不用額を加味していないため、歳出額や収支不足額は決算時よりも大きくなる傾向があります。端数調整により歳入歳出差引が一致していない箇所があります。

令和11年度までの長期財政収支見込みを作成しましたので概要をお知らせします。(詳細は市ホームページをご覧ください。)

財政課 ☎38-2011



これからの財政運営

現状の収支見込みのまま何ら対策を講じなければ、基金残高がマイナスとなるおそれがあります。そのような状況を回避するために、歳入確保(市税等の徴収率のさらなる向上や新たな財源の確保)や歳出抑制(公共施設の適正配置、事業の優先順位付けによる経常経費の抑制、効率的な組織体制の構築)の取り組みをより一層進めてまいります。